

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

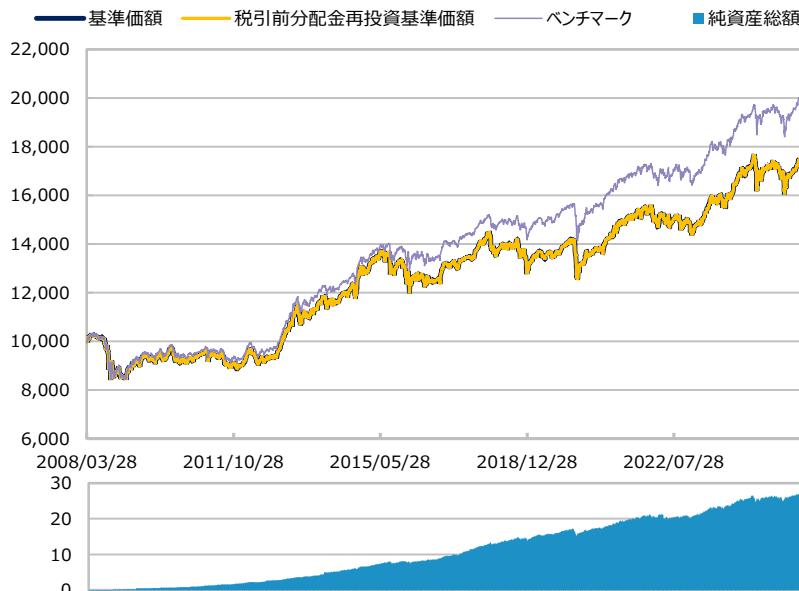
【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

ファンド設定日：2008年03月31日

日経新聞掲載名：おまかせ

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。
- ベンチマークは、合成指数です。ファンド設定日前日を10,000とした指標を使用しています。

詳細は後述の「ベンチマークまたは参考指標に関する注意事項」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	17,639	+230
純資産総額（百万円）	2,720	+26

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1カ月	2025/08/29	1.3	1.2
3カ月	2025/06/30	3.3	3.0
6カ月	2025/03/31	5.2	5.7
1年	2024/09/30	4.3	5.0
3年	2022/09/30	20.5	20.9
設定来	2008/03/31	76.4	101.9

■ ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。

■ 換金時には税金等の費用がかかる場合があります。

■ 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第13期	2021/04/13	0
第14期	2022/04/13	0
第15期	2023/04/13	0
第16期	2024/04/15	0
第17期	2025/04/14	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	30.0	38.0	+8.0	+4.1
国内株式マザー	20.0	23.9	+3.9	+4.1
外国株式マザー	10.0	14.1	+4.1	+0.1
債券計	65.0	61.1	-3.9	-4.1
国内債券マザー	50.0	46.0	-4.0	-4.1
外国債券マザー	15.0	15.1	+0.1	+0.1
現金等	5.0	0.9	-4.1	-0.1
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 現金等にはマネー・ファンドを含みます。

※ 各組入マザーファンドの正式名称は2枚目をご覧ください。

基準価額の変動要因（円）

寄与額	
国内株式	+107
外国株式	+56
国内債券	-6
外国債券	+13
為替	+69
分配金	0
その他	-10
合計	+230

※ 基準価額の月間変動額を主要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。

※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

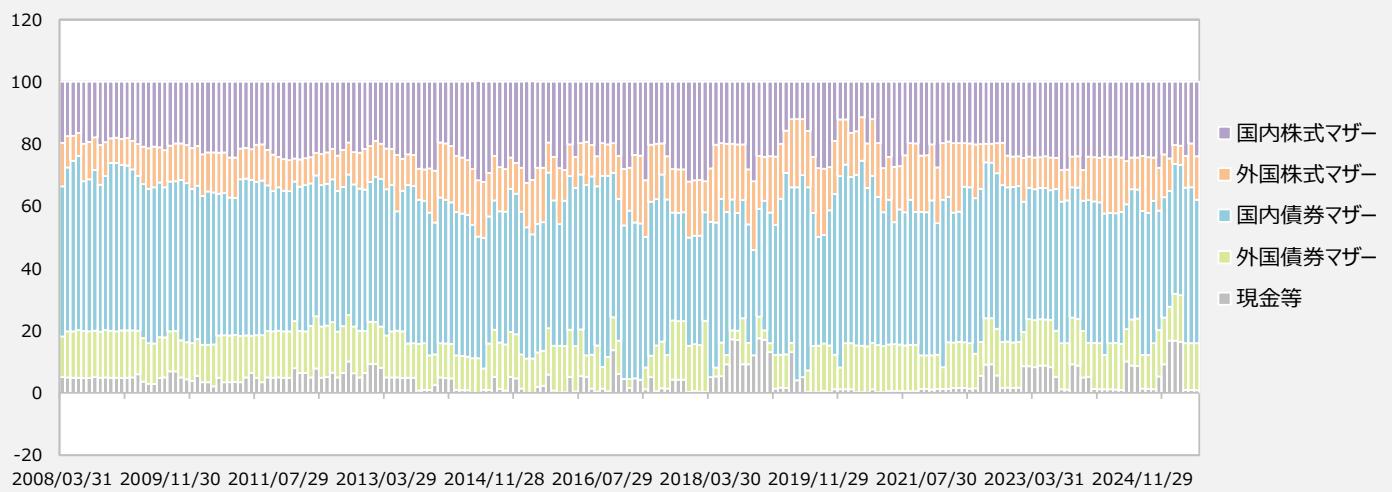
■ 設定・運用

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

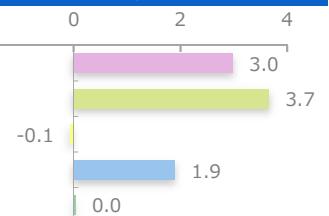
資産構成比率の推移 (%)



組入投資信託の騰落率 (%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
国内株式マザー	3.0	11.1	19.4	21.6	84.1	272.7
外国株式マザー	3.7	10.3	18.7	22.3	94.0	600.8
国内債券マザー	-0.1	-1.4	-1.6	-5.1	-7.9	10.4
外国債券マザー	1.9	3.5	4.8	7.0	20.8	85.0
マネー・ファンド	0.0	0.1	0.2	0.3	0.3	1.1

当月騰落率 (%)



※ 国内株式マザーの正式名称は「国内株式インデックス・マザーファンド（B号）」です。

※ 外国株式マザーの正式名称は「外国株式インデックス・マザーファンド」です。

※ 国内債券マザーの正式名称は「国内債券パッシブ・マザーファンド」です。

※ 外国債券マザーの正式名称は「外国債券パッシブ・マザーファンド」です。

※ マネー・ファンドの正式名称は「マネーインカム・マザーファンド」です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

ファンドマネージャーコメント

＜運用経過＞

月初、基本資産配分に対し、外国株式をオーバーウェイト、国内株式及び国内債券、外国債券を中立、現預金をアンダーウェイトとしました。月前半には、国内株式のオーバーウェイトを構築しました。自民党総裁人事について、石破氏の交代が決定したことで、10月上旬にかけて新政権への期待が強まる想定したほか、米利下げ期待の高まりも株式市場のサポート材料になると考えました。

＜今後の運用方針＞

景気については、トランプ政権の関税政策が景気の押し下げ要因となるものの、米国を中心とした主要国の財政政策やFRB（米連邦準備制度理事会）の利下げなどがサポート材料となり、景気の腰折れリスクは低下しています。

足元の相場環境においては、トランプ政権の関税政策による景気の影響が軽微であるか、影響が出てくるまで時間がかかっているのか、不透明感が残る状況であるため、投資スタンスはリスク抑制とします。

今後も市場の動向に注意しながら、見通しに応じて機動的に投資配分比率を調整することで、安定的な収益の確保と信託財産の中期的な成長を目指します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「国内株式インデックス・マザーファンド（B号）」の情報を記載しています。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
株式	98.5	-1.0
先物等	1.5	+1.0
現金等	0.0	-0.0
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

基準日	ファンド	ベンチマーク
1ヶ月	2025/08/29	3.0
3ヶ月	2025/06/30	11.1
6ヶ月	2025/03/31	19.4
1年	2024/09/30	21.6
3年	2022/09/30	84.1
設定来	2008/03/31	272.7
		271.5

※ ベンチマークは、TOPIX（東証株価指数、配当込み）です。

組入上位10業種（%）

	当月末	前月比	0	10	20
1 電気機器	17.3	+0.4		17.3	
2 銀行業	9.4	+0.1		9.4	
3 情報・通信業	7.9	-0.3		7.9	
4 卸売業	7.2	+0.0		7.2	
5 輸送用機器	6.7	-0.2		6.7	
6 機械	6.0	+0.0		6.0	
7 化学	4.7	-0.0		4.7	
8 小売業	4.4	-0.1		4.4	
9 サービス業	4.1	-0.2		4.1	
10 医薬品	3.5	-0.1		3.5	

※ 業種は東証業種分類です。

組入上位10銘柄（%）

(組入銘柄数 1,628)

銘柄	業種	比率
1 トヨタ自動車	輸送用機器	3.4
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.4
3 ソニーグループ	電気機器	3.3
4 日立製作所	電気機器	2.2
5 ソフトバンクグループ	情報・通信業	2.1
6 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.9
7 任天堂	その他製品	1.8
8 三菱商事	卸売業	1.5
9 三菱重工業	機械	1.5
10 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.5

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「国内株式インデックス・マザーファンド（B号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

国内の株式市場は上昇しました。

上旬は、トランプ大統領による自動車関税引き下げの大統領令署名が好感されたことや、石破首相の辞意表明に伴う次期政権による財政拡張への期待などから上昇しました。中旬は、FRB（米連邦準備制度理事会）の利下げ再開が好感された一方、日銀のETF（上場投資信託）売却決定が嫌気され、一進一退となりました。下旬は、AI関連銘柄やハイテク株を牽引役に最高値を更新したものの、高値警戒感が高まる中、月末にかけて米政府機関閉鎖への警戒や自民党総裁選を控え、上値の重い展開になりました。

業種別では、非鉄金属、石油・石炭製品、鉱業などが市場をアウトパフォームした一方、空運業、海運業、その他製品などがアンダーパフォームしました。

<市場見通し>

国内の株式市場は、高値圏でもみ合う展開を予想します。

世界景気は、米政権の関税引き上げの影響により一時的に減速するものの、米利下げ再開や主要国の財政出動などによって2026年に回復すると予想します。国内は、自民党の新総裁の下で、連立の枠組み拡大による景気配慮型の政策が行われると考えます。底堅い内外景気を背景に国内企業の業績は改善基調が続くと見込むほか、ガバナンス（企業統治）改革への着実な進展も中期的に株価を支える要因と期待されます。一方、足元までの株価上昇によりバリュエーション（投資価値評価）に過熱感もあり、高値警戒感が当面の株価を抑えると考えられます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

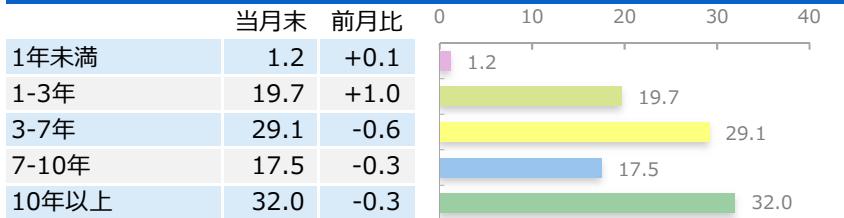
作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「国内債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	99.5	-0.1
先物等	0.0	0.0
現金等	0.5	+0.1
合計	100.0	0.0

残存構成比率 (%)

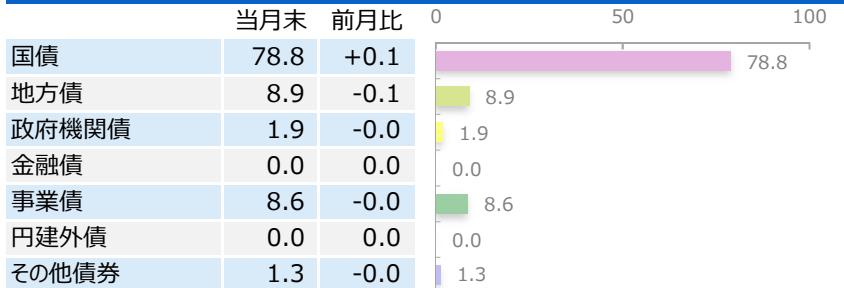


騰落率（税引前分配金再投資）(%)

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1ヶ月	2025/08/29	-0.1	-0.1
3ヶ月	2025/06/30	-1.4	-1.4
6ヶ月	2025/03/31	-1.6	-1.6
1年	2024/09/30	-5.1	-5.2
3年	2022/09/30	-7.9	-8.0
設定来	2008/03/31	10.4	10.1

※ ベンチマークは、NOMURA-BPI（総合）です。

種別構成比率 (%)



ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	1.0	-0.0
残存年数 (年)	9.3	-0.0
デュレーション (年)	8.3	+0.0
直接利回り (%)	1.1	+0.0
最終利回り (%)	1.6	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

銘柄	(組入銘柄数 443)		
	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 471 2年国債	0.900	1.5	3.3
2 379 10年国債	1.500	9.7	1.5
3 378 10年国債	1.400	9.5	1.1
4 177 5年国債	1.100	4.2	1.0
5 375 10年国債	1.100	8.7	0.9
6 154 5年国債	0.100	2.0	0.9
7 179 5年国債	1.000	4.7	0.9
8 359 10年国債	0.100	4.7	0.9
9 373 10年国債	0.600	8.2	0.8
10 364 10年国債	0.100	6.0	0.8

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

※ このページは「国内債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

国内の長期金利（10年国債利回り）は小幅に上昇しました。

国内金利は月初に上昇して始まったものの、その後は冰見野日銀副総裁の講演がハト派（景気を重視する立場）的と受け止められたことや海外金利の低下を背景に、やや低下した水準で推移しました。一方で、石破首相の辞任表明による政治情勢の不透明化や、日銀が年内利上げを排除せずとの観測報道もあり、金利低下幅は限定的でした。18、19日の日銀金融政策決定会合では政策金利が据え置かれたものの、審議委員2名が反対票を投じ利上げを提案したことで市場での早期利上げ観測が高まり、金利が上昇しました。月末にかけても、追加利上げの織り込みが継続し、国内金利は高位での推移を継続しました。

＜市場見通し＞

国内景気は米国の関税措置による影響が輸出や生産に若干見られているものの、日米貿易合意に基づく軽減措置や賃金上昇による消費の持ち直し、企業の設備投資需要を支えに、成長軌道に戻る見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、財価格の上昇圧力の減衰が見込まれる一方でサービス価格が上昇することにより、政策要因による一時的な下押しの影響を除けば、+2%程度の伸び率を維持できる見通しです。国内金利は、マクロ環境の改善や米関税政策に関する不確実性の低下が進むことで日銀が利上げ姿勢に戻ることが見込まれるため、上昇圧力がかかりやすい環境が続く見通しです。他には、財政拡大への警戒を高めやすい国内政治情勢が金利の上昇要因、金利上昇に伴う投資家需要の拡大が金利の上昇抑制要因となる見込みです。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「外国株式インデックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	98.3	-0.4
先物等	1.8	+0.5
現金等	-0.1	-0.1
合計	100.0	0.0

組入上位5カ国・地域 (%)



騰落率（税引前分配金再投資） (%)

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1ヶ月	2025/08/29	3.7	3.7
3ヶ月	2025/06/30	10.3	10.4
6ヶ月	2025/03/31	18.7	18.9
1年	2024/09/30	22.3	22.6
3年	2022/09/30	94.0	95.4
設定来	2008/03/31	600.8	620.1

※ ベンチマークは、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）です。

組入上位5通貨 (%)



組入上位5業種 (%)



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄 (%)

銘柄	国・地域	(組入銘柄数 1,143)	
		業種	比率
1 エヌビディア	アメリカ	半導体・半導体製造装置	5.8
2 アップル	アメリカ	テクノロジ・ハードウェア・機器	4.9
3 マイクロソフト	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.7
4 アマゾン・ドット・コム	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	2.8
5 メタ・プラットフォームズ	アメリカ	メディア・娯楽	2.1
6 ブロードコム	アメリカ	半導体・半導体製造装置	1.9
7 アルファベット クラスA	アメリカ	メディア・娯楽	1.8
8 テスラ	アメリカ	自動車・自動車部品	1.7
9 アルファベット クラスC	アメリカ	メディア・娯楽	1.6
10 JPMorgan Chase & Co.	アメリカ	銀行	1.1

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「外国株式インデックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

米国株式市場は上昇しました。上旬は雇用統計などの経済指標が事前予想を下回ったことから利下げ期待が高まり、堅調に推移しました。中旬のFOMC（米連邦公開市場委員会）では、市場予想通りに0.25%の利下げが決定されました。その後は、高値警戒感から上昇幅を縮小する局面もありましたが、S&P500インデックスは最高値を更新しました。特に、テクノロジー関連銘柄の株価は、オラクルの好調な業績見通しやエヌビディアによるインテルへの出資といったニュースを受けて堅調でした。

欧州株式市場は上昇しました。米国景気を巡る不透明感の後退や利下げ期待が下支え要因となりましたが、フランスで内閣が総辞職するなど政治体制や財政面での不透明感に加えて、テクノロジー関連銘柄のウェイトが相対的に小さいことから、上昇幅は米国市場よりも緩やかでした。

（為替）米ドル/円は上昇しました。月初は日銀高官発言がハト派（景気を重視する立場）的と捉えられたことや日本の政局不透明感から上昇しました。その後、米金利の低下を受けて下落しましたが、パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の発言が市場予想ほどハト派的ではなく米金利が上昇に転じたことから、米ドル高・円安となりました。

ユーロ/円は上昇しました。日銀の利上げ期待の後退や日本の政局不透明感、ラガルドECB（欧州中央銀行）総裁の発言がタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的と捉えられたことなどから、ユーロ高・円安となりました。

<市場見通し>

米国株式市場は、トランプ大統領の関税政策に対する警戒感は徐々に緩和していますが、相互関税導入によるマクロ経済や企業業績への影響は注意が必要です。関税率の緩和や減税に伴う楽観的な見方は既に織り込みが進んでおり、株式市場は当面新規材料に乏しく、上値の重い展開となりそうです。ただし、年末に向かって、追加利下げ観測に加えて、企業業績も堅調を維持するとの見方から、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。

欧州株式市場も、米国や中国など外需に対する警戒感が当面の上値を抑える展開が見込まれます。ただし、ドイツをはじめとする欧州主要国での財政出動や欧米での金融緩和の効果が期待されることから、緩やかな上昇を予想します。

（為替）米ドル/円は、もみ合いの展開を予想します。FRBの利下げ期待から米ドルは下落しやすい環境にあります。日銀の金融政策スタンスは利上げ継続であるものの、一方で日本の投資家の対米投資継続や日本の財政規律の悪化懸念が円安要因と見込まれます。

ユーロ/円は、緩やかな上昇を想定します。日銀の利上げ継続姿勢は円高要因である一方、ユーロ圏の景気が底

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

愛称：資産配分おまかせくん

マンスリー・レポート

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「外国株式インデックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

堅く推移していることがユーロ高要因と考えます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「外国債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	99.5	+0.6
先物等	0.0	0.0
現金等	0.5	-0.6
合計	100.0	0.0

組入上位5通貨 (%)



騰落率（税引前分配金再投資） (%)

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1ヶ月	2025/08/29	1.9	1.9
3ヶ月	2025/06/30	3.5	3.6
6ヶ月	2025/03/31	4.8	4.9
1年	2024/09/30	7.0	7.2
3年	2022/09/30	20.8	21.0
設定来	2008/03/31	85.0	86.7

※ ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）です。

組入上位5力国・地域 (%)



ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	2.9	+0.0
残存年数 (年)	8.1	+0.1
デュレーション (年)	6.2	+0.1
直接利回り (%)	3.0	+0.0
最終利回り (%)	3.4	+0.0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 904)

銘柄	通貨	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 中国国債	中国元(オフショア)	2.390	1.1	0.7
2 中国国債	中国元(オフショア)	2.040	1.4	0.6
3 アメリカ国債	アメリカドル	4.250	1.2	0.6
4 中国国債	中国元(オフショア)	3.720	25.5	0.5
5 中国国債	中国元(オフショア)	1.460	2.7	0.5
6 アメリカ国債	アメリカドル	3.875	1.7	0.5
7 アメリカ国債	アメリカドル	4.250	9.6	0.4
8 アメリカ国債	アメリカドル	4.625	9.4	0.4
9 中国国債	中国元(オフショア)	1.790	6.5	0.4
10 アメリカ国債	アメリカドル	3.875	8.9	0.4

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「外国債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

米国では、長期金利（10年国債利回り）は低下しました。月前半は雇用関連指標などが市場予想を下回ったことを背景に金利は低下しました。その後、FOMC（米連邦公開市場委員会）では0.25%の利下げが決定されましたが、パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の発言が市場予想ほどハト派（景気を重視する立場）的ではなかったことなどから金利は低下幅を縮小しました。

ユーロ圏では、長期金利（ドイツ10年国債利回り）は前月末対比で概ね横ばいとなりました。月前半は米金利に連動して金利が低下しましたが、その後ECB（欧州中央銀行）理事会でのラガルド総裁の発言がタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的と捉えられたことなどから金利は上昇しました。

（為替）米ドル/円は上昇しました。月初は日銀高官発言がハト派的と捉えられたことや日本の政局不透明感から上昇しました。その後、米金利の低下を受けて下落しましたが、パウエルFRB議長の発言が市場予想ほどハト派的ではなく米金利が上昇に転じたことから、米ドル高・円安となりました。

ユーロ/円は上昇しました。日銀の利上げ期待の後退や日本の政局不透明感、ラガルドECB総裁の発言がタカ派的と捉えられたことなどから、ユーロ高・円安となりました。

<市場見通し>

米国では、雇用創出ペースの減速を背景に、FRBは年内にあと2回の利下げを行うと想定します。一方でインフレ懸念も根強く、長期金利は横ばいの展開を予想します。

ユーロ圏では、景気は底堅く推移する見込みであり、ECBは政策金利を維持すると予想します。そのため、長期金利は横ばいの展開を予想します。

（為替）米ドル/円は、もみ合いの展開を予想します。FRBの利下げ期待から米ドルは下落しやすい環境にあります。日銀の金融政策スタンスは利上げ継続であるものの、一方で日本の投資家の対米投資継続や日本の財政規律の悪化懸念が円安要因と見込まれます。

ユーロ/円は、緩やかな上昇を想定します。日銀の利上げ継続姿勢は円高要因である一方、ユーロ圏の景気が底堅く推移していることがユーロ高要因と考えます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

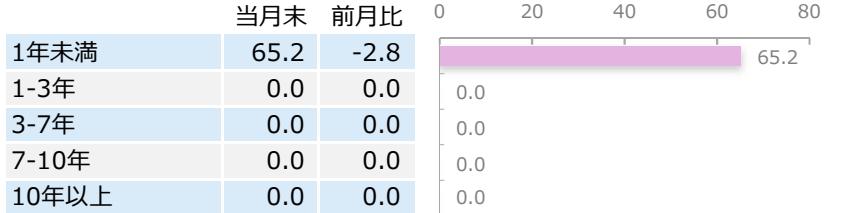
作成基準日：2025年09月30日

※ このページは「マネーインカム・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	65.2	-2.8
先物等	0.0	0.0
現金等	34.8	+2.8
合計	100.0	0.0

残存構成比率 (%)

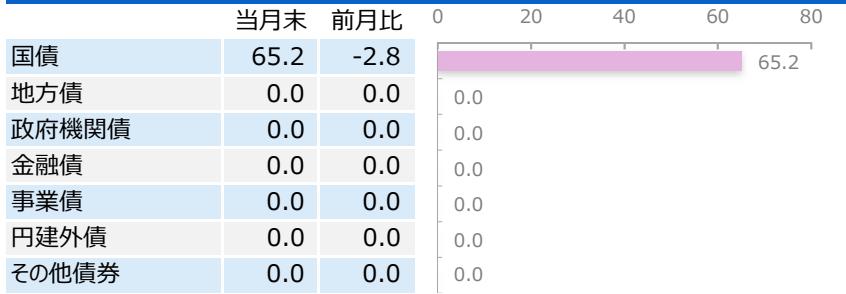


騰落率（税引前分配金再投資） (%)

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1ヶ月	2025/08/29	0.0	0.0
3ヶ月	2025/06/30	0.1	0.1
6ヶ月	2025/03/31	0.2	0.2
1年	2024/09/30	0.3	0.4
3年	2022/09/30	0.3	0.4
設定来	2008/03/31	1.1	1.1

※ ベンチマークは、無担保コール翌日物を指します。

種別構成比率 (%)



ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	0.0	+0.0
残存年数 (年)	0.4	+0.1
デュレーション (年)	0.4	+0.1
直接利回り (%)	0.0	+0.0
最終利回り (%)	0.4	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

銘柄	(組入銘柄数 4)		
	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 342 10年国債	0.100	0.5	17.5
2 148 5年国債	0.005	0.7	17.4
3 344 10年国債	0.100	1.0	15.9
4 1276国庫短期証券	0.000	0.2	14.4

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

ファンドの特色

1. 日本を含む世界各国の株式、公社債および短期金融資産に分散投資することにより、信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。
実際の運用は、各資産に投資する5つのマザーファンドへの投資を通じて行います（ファミリーファンド方式）。
国内株式 国内株式インデックス・マザーファンド（B号）
国内債券 国内債券パッセ・マザーファンド
外国株式 外国株式インデックス・マザーファンド
外国債券 外国債券パッセ・マザーファンド
短期金融資産 マネーインカム・マザーファンド
2. 委託会社が独自に作成する基本資産配分に対し、一定の許容変動幅内で機動的に資産配分を変更します。
基本資産配分は、5年に一回程度検証を行い、必要であれば見直しを行います。
3. 運用にあたっては、基本資産配分に基づいて、以下の指標を合成したベンチマークを上回る投資成果を目指します。
国内株式20%：TOPIX（東証株価指数、配当込み）
国内債券50%：NOMURA-BPI（総合）
外国株式10%：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）
外国債券15%：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）
短期金融資産5%：無担保コール翌日物
※基本資産配分の見直しに伴い、ベンチマークの合成比率の見直しも行います。
4. 実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしきみの違い等により、債券ごとに異なります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

投資リスク

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
 - 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
 - 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
-
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2008年3月31日設定）

決算日

毎年4月13日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント **Be Active.**

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料

ありません。

- 信託財産留保額

ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）

ファンドの純資産総額に年0.649%（税抜き0.59%）の率を乗じた額です。

- その他の費用・手数料

以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。

- 監査法人等に支払われるファンドの監査費用

- 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料

- 資産を外国で保管する場合の費用 等

※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。

※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※ 受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社

ファンドの運用の指図等を行います。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ホームページ： <https://www.smd-am.co.jp>

コールセンター：0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

受託会社

ファンドの財産の保管および管理等を行います。

三井住友信託銀行株式会社

販売会社

ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	日本一般投資顧問社団問問業協会	金融一般物取扱法人協会	一般社団法人投資信託協会	備考
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○		※1
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○		
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
株式会社イオン銀行（仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○					※2
株式会社 S B I 新生銀行（S B I 証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※1 ※3
株式会社 S B I 新生銀行（マネックス証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※1 ※2
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号		○	○		○	

備考欄について

※1：ネット専用※2：委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社※3：委託金融商品取引業者 株式会社 S B I 証券

ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項

- ベンチマークは、TOPIX（東証株価指数、配当込み）、NOMURA-BPI（総合）、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）、無担保コール翌日物の日々の収益率を当ファンドの基本資産配分で加重平均し、当社が独自に指数化しています。

TOPIX（東証株価指数）は株式会社JPX総研、NOMURA-BPIは野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社、MSCIコクサイ・インデックスはMSCI Inc.、FTSE世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCが、それぞれ公表している指数です。

各インデックスに関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は、指数を公表および許諾する各社に帰属します。また、当該各社は当ファンドの取引および運用成果等に関する一切責任を負いません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

S M A M・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年09月30日

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.